

Dr.ジーンの myカルテ

テーマ 採卵鶏のコクシジウム感染症と壊死性腸炎について

今回は、密接に関係する2つの病気
——寄生虫による「コクシジウム感染症」と、
細菌による「壊死性腸炎」についてお話いたします。



鶏を脅かす2つの病原体

鶏のコクシジウム感染症はコクシジウム原虫(単細胞の寄生虫)の感染が原因となって下痢や血便を引き起こす病気です。鶏の腸の中で増殖したコクシジウム(写真1)が糞便中に多く排出され、それが別の鶏の口から体内に入ることと感染が広がります。糞便と鶏がどの程度触れているかが感染の広がりや症状の重さに大きくかわるため、平飼いの肉用鶏においてよく問題にされています。しかし、糞便が下に落ちていく構造のケージで飼養されている採卵鶏でも散発的に発生が見られます。

また、鶏の壊死性腸炎はウェルシュ菌(クロストリジウムパーフリンゲンス)という菌が原因となって引き起こされます(写真2)。しかしながら、この菌は健康な鶏の腸内にも住んでいる菌です。ウェルシュ菌だけではほとんど悪さをしません。ほかの病気で腸が弱ったり腸内細菌のバランスが崩れると一気に増殖し、大きな被害へとつながります。これらの病気に対処する際、採卵鶏では卵に薬の成分が残ってしまうため抗生物質や抗寄生虫薬を使えないという問題があります。そのため、対策のメインは鶏舎環境内に病原体を溜めない事となります。オールインオールアウト

と空舎期間中の洗浄乾燥消毒の徹底により、蓄積した病原体を1ロットごとリセットするようにしましょう。そして飼養中は除糞ベルトの回転率に注意し除糞をしっかり行いましょう。

「いつもの状態」を把握する

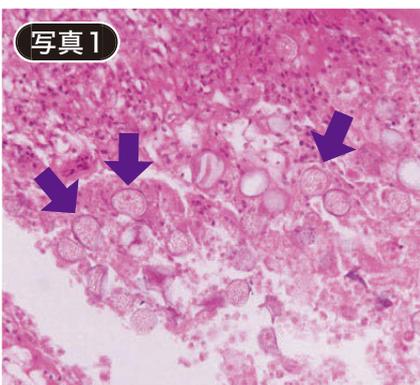
コクシジウムはオーシストと呼ばれる卵のような状態で環境中に存在します。このオーシストの殻がとても丈夫なため、日常的に使われる消毒剤では効果がありません。オルソ系消毒剤は効果がありますが殺滅に2〜6時間必要のため、鶏舎消毒よりも踏み込み槽用として使われる事が多いです。水洗の作業を高温高压スチームで行うことは効果的です。

ウェルシュ菌もまた、芽胞と呼ばれるカプセルのような丈夫な構造を持つ菌なので、使用できる消毒剤が限定されます。塩素系やヨード系消毒剤が効果を持ちますが、これらは金属を腐食させてしまうため鶏舎消毒には向きません。ホルマリン薫蒸が効果的です。

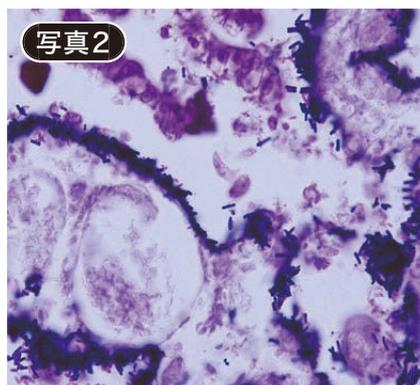
コクシジウムもウェルシュ菌も環境中に常在している病原体です。感染そのものは常に起きていると考えてもよいでしょう。そのため、衰弱や産卵低下が見られた時に慌てて検査を行い、これら

の病原体が検出されたとしても、それが本当に成績悪化の原因だったのかは判断が難しいものです。

こうした事からも、普段から定期的な検査を行い、陽性率や糞便1gあたりの検出数といった、農場の「いつもの状態」を把握しておく事が対策の第一歩となります。



コクシジウムに感染した鶏盲腸の顕微鏡写真。矢印の先の丸いものが、細胞に入り込んだコクシジウム



壊死性腸炎を発症した鶏の十二指腸顕微鏡写真。濃い紫色の短い棒状のものがウェルシュ菌